

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	港区港南 4-7-37 港区港南緑水公園内
園名	ミアヘルサ保育園ゆらりん港南緑水

1 活動のテーマ

<テーマ>

自然

<テーマの設定理由>

公園内に隣接している保育園なので、自然との触れ合いに着目し「自然物」の特徴を探求する。

2 活動スケジュール

- ・事前準備 野菜作りで使用したプランターに入っている土を用意する。
土をタライに開け、子供たちが触れるようにする。
- ・10月21日 子供たちとタライに入った土を触り、感触や匂いを確かめてみる。
途中で水を入れ、形状等の変化も観察する。
- ・活動以降 水を混ぜた土をタライに入れたままにし、日が経っての変化も観察できるようにする。毎日、変化を観察する。

3 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

土、タライ、スコップ、如雨露、水、デジタルカメラ

4 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・実施前に自分たちで育てた野菜の時に使用した土を使って遊ぶことを伝えた。また、水を入れることも伝え、土の変化を想像できるように促した。
- ・手で直接触り、肌で直接感触を確かめてもらった。土の中にあるものを調べてもらったり、鼻で匂いを嗅いでみるよう促した。
- ・土に水を入れ、形状等の変化も楽しめるように設定した。
- ・水を入れた土はそのままタライに入れたままにし、翌日以降も変化を観察できるようにした。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・始まる前に、保育者から「土を触ったときの感じを教えてね」「匂いも嗅いでみてね」と声をかけ、児らが自身で土の特徴を感じて言葉にできるように促した。
- ・児らは意欲的に土に手を入れて、その感触を味わっていた。「サラサラする」「石が入ってる」「変な匂いする」と各々が特徴を掴み、言葉にして保育者に伝えていた。
- ・水を入れる作業では、すぐに「色が違う」「ドロドロしてきた」と変化に気づいていた。その後も、どろどろに変化した土を触り続けていた。



5 振り返り<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・「土」というどこにでも存在しているものだからこそ、知ることができた特徴を直接触って遊ぶだけという活動だったが、児らの発見が多くあった。野菜作りで使った土であることも、児らの親近感にもつながったように感じる。
- ・その後の観察も楽しめるようにしたことで、意欲の継続にもなり、「自然」をより身近に感じられる結果となり、大変意義のある活動だった。身近なものに自然があるという意識が持てるような活動を今後も展開していきたいと思う。